

おしえて!



わん[🐾]にゃん通信



2020/2/25 No.17

毎年3月11日や4月14日など、大きな災害があった日が近付くと、普段より災害への意識が高まりますね。No.13では「災害時の持ち物」についてお伝えしました。

今回からは「普段から出来る災害時の備え」をお伝えします。

災害時は不測の事態が多く、同行避難ができず、はぐれてしまう可能性もあります。例えば、普段から外に出る習慣があるねこちゃんは、災害発生時に家にいなかったり、わんちゃんは散歩中に災害が起こり、離ればなれになってしまう場合なども考えられます。

そこで、所有者がわかるものを身につけているかが大切になってきます。わんちゃんもねこちゃんも首輪をしている子が多いですが、飼い主さんがわかるような迷子札（動物の名字を含む名前や、飼い主の名前と連絡先等）を身に付けていない子が熊本地震の時も、多かったそうです。

下の表は、熊本地震での所有者明示の状況を表にしたものです。熊本県と熊本市において飼い主不明として動物救護施設に保護収容された犬猫のうち、自治体が把握できたもののみで、何らかの所有者明示等装着していたのは、**犬344頭、猫13頭**のみでした。

		装着頭数	装着により飼い主が判明した頭数と割合
犬	首輪のみ（迷子札なし）	344	136（40%）
	迷子札	1	1（100%）
	鑑札・狂犬病予防注射済票 （どちらか一方または両方）	16	15（94%）
	マイクロチップ	7	6（86%）
猫	首輪のみ（迷子札なし）	13	3（23%）
	迷子札	0	0（0%）
	マイクロチップ	0	0（0%）

引用 環境省 熊本地震における被災動物対応記録集

装着するものによって見つかる確率が変わってきます。離ればなれになってしまった場合も帰ってこられる手段や方法を考えてあげてください。

他にも、避難所にいる時やはぐれている間でも、病気の感染や拡大など、望まぬ事態が起こらないよう対策が必要です。避妊去勢をしているか、狂犬病ワクチンや混合ワクチンの接種、フィラリアやノミ、マダニの寄生予防（人への寄生、動物や人への感染症の媒介にもなります）などがあります。これらは人にも動物にも感染する人獣共通感染症の蔓延の防止にも繋がるので、とても大事になってきます。普段から出来るとお伝えしていますが、普段から意識や予防をしないと、災害がおきてからでは対策が追いつかないものばかりですね。

次回は、今回の「普段からできる災害時の備え」の続きになります。

